

<b>クリ「神峰」の良品質果生産のための虫害対策</b>		
[要約] 本県育成品種クリ「神峰」において8月上～中旬に薬剤散布を行うとモモノゴマダラノメイガ等の虫害を減少させることができ、高階級の果実割合の増加と収入増が期待できる。		
茨城県農業総合センター園芸研究所	成果区分	普及(情報)

### 1. 背景・ねらい

本県育成のクリ「神峰」は1果重が30gになる大果の早生品種であるが、同時期の早生品種に比べてモモノゴマダラノメイガ等の虫害に弱い品種である。そこで、「神峰」の安定栽培において虫害防止対策として薬剤防除が有効であることを実証する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) クリ「神峰」のPAP乳剤(商品名エルサン乳剤)薬剤散布は、モモノゴマダラノメイガ被害抑制に高い効果があり、8月上旬の1回散布、8月上・中旬の2回散布ともに虫害果率は無散布の1/2以下となる(表1)。
- 2) 薬剤散布をすると無散布より1果重が大きくなる傾向がみられ、収穫健全果中の3L果発生率が高く、L果の発生率が少なくなる。逆に、無散布の場合はL果の発生率が高くなる(図1)。これは、薬剤散布により虫害が減り果実が良好に生育するためと考えられる。
- 3) 薬剤散布の有無に関わらず階級が下がると虫害の発生率が増加する(図2)。これは、生育途中で虫害を受けることで果実肥大が抑制されたためと考えられる。
- 4) 収量を300kg/10aとして虫害果の減少を考慮して試算すると1.6～2.3万円/10aの収入増となる(表2)。薬剤費は1728円/10a(1樹10L散布時)である。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 薬剤散布に関しては、稔の表面に十分薬剤がかかるように丁寧に散布する。
- 2) モモノゴマダラノメイガの発生は年次変動があり、クリの生育が進んでいる年には被害が早くて多い傾向があるので防除時期に注意する。

#### 4. 具体的データ

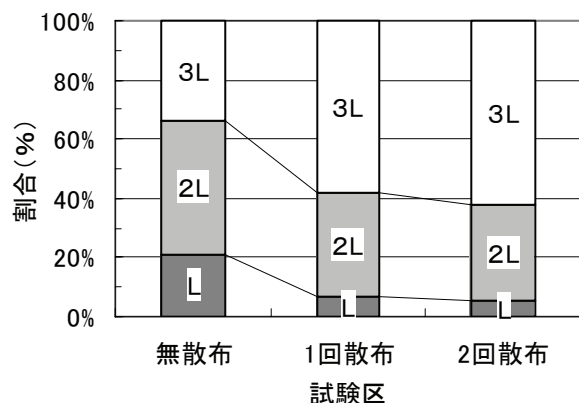


図1 薬剤散布と階級発生割合(健全果)

表2 神峰のPAP乳剤散布コスト試算(10a当り)

	薬剤費 (円/10a)	労働費 (円/10a)	収益 (円/10a)	収支 (10a)
無散布	0	0	58,685	58,685
1回散布	1,728	4,512	87,546	81,306
2回散布	3,456	9,024	87,186	74,706

注) 薬剤費336円/100mlで試算 1樹当り10L散布  
 労働費1000円/hr、1樹散布時間5分、薬剤散布準備時間30分で試算  
 3L=400円、2L=300円、L200円/kgで試算  
 障害果は虫害果のみと仮定し、収量は全ての区で300kg/10aとした

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

果樹推奨品種決定と生態収量予究室

果樹推奨品種決定と生態収量予測 (クリ「神峰」の栽培技術の確立)

平成 15 年～

果樹研究室